

## 全日本中学校長会会長賞（優秀賞）

### 先人たちが残した水の恵み

山梨県 北杜市立甲陵中学校 二年 小林 礼佳

甲府盆地の西にそびえる、南アルプスの山並み。その麓に広がる御勅使川扇状地のほぼ中央部に、私の住む「南アルプス市」はあります。

六月に入ると、真つ赤に実ったサクランボを求めて、県内外からたくさんのお客が訪れ、街が活気に満ちあふれます。今は、新緑が芽吹いたサクランボや桃の木々の根元で、毎日のようにスプリンクラーが回り、キラキラと光る水しぶきをあげながら散水が行われています。その水を吸い上げ、木々は更に葉を茂らせ実をふくらませてきています。スプリンクラーの散水の様子を目にすると、夏の訪れを感じ、爽やかな気持ちになります。

「南アルプス」という言葉から、清々しい水がこんこんと湧き出すイメージを持たれる方も少なくないと思います。

そんな南アルプス市内において、少し土を掘り返すと小石がゴロゴロと出てくる河原のような土地であるのに、自然の川が存在せず「月夜にも焼ける（乾燥する）」と呼ばれた地域があります。それが、私の住む西野地区です。

その昔、西野地区は水不足に苦しみ、干ばつに悩まされ続けました。こうした荒れた土地に住みながらも、先人たちは、耕作できる作物を探し、ねばり強く品種改良を重ね、血のにじむような努力により、この地の特徴をうまく生かした果樹の栽培に成功したのです。そして現在では、桃、すもも、サクランボ、柿など多種の果物が実り、フルーツ王国山梨の一端を担う産地となっています。

南アルプスの農業の歴史は、同時に、水との壮絶な戦いの歴史であったと言っても過言ではありません。

川の無かった私たちの地域では、生活用水農業用水のほぼ全てを、池に溜めた水に頼らざるを得ませんでした。住宅の屋根に降る雨をもトヨで集めて生活用水として利用したり溜池の周囲にケヤキや竹を植え、せ

つかく集めた水が腐ってしまうのを防いだりしたそうです。現在でも近所を歩くと、いたるところに、溜池やケヤキの大木を目にすることが出来ます。

農家の人たちは「釜無川右岸土地改良区連合」という組織を立ち上げ、大型の貯水池作り、そこから、地中に埋めたパイプを通して家々の畑に水が届けられるようになりました。現在でも農家の人たちは、みんなでお金を出しあい、いつでも畑の作物に水が与えられるように、施設の点検やスプリンクラーの整備を行っているそうです。

しかし先日、貯水池の近くを通りかかった際の事です。貯水槽の水の表面に、ゴミや空のペットボトルが浮かんでいるのを目にしました。

一滴の水をも無駄にすまいと取り組んだ先人たちの労苦を思うと、その光景はとても残念で胸が痛みました。水で苦労した地域の歴史を知っていれば、こんな事が出来るはずがないだろうと思うと、とても悲しくなりました。

今、蛇口をひねれば、水はふんだんに使うことが出来ます。でも、この地区ではほんの五十年前からの事だそうです。

普段、私たちは、そのような歴史を考えながら水を使っているのでしょうか。「水を大切にしよう」と、声高に叫ぶことは簡単ですが、この地に住む者として、先人たちの水との戦いの歴史を知ることが、水を大切にしようという意識の第一歩につながっていくのではないのかと感じます。

今年もまた、サクランボ狩りの季節がやってきます。口に含むと、弾けるように広がる甘みと食感は、まさに「水の恵み」に他なりません。この恵みが、ずっと先の未来まで続くことを願い、日々、私たちも水を大切に使っていきたいです。